

第1回オールスターボランティア報告

2004年7月3日 IN 新潟ビックスワン



一年に一度トッパリーグの選手がサポーターから選ばれてピッチに立つ、そのオールスターゲームは1993年に始まり昨年まで11回開催されています。2000年には完成したばかりの宮城スタジアムで開かれ、ストイコビッチの華麗なプレーが記憶に残っています。

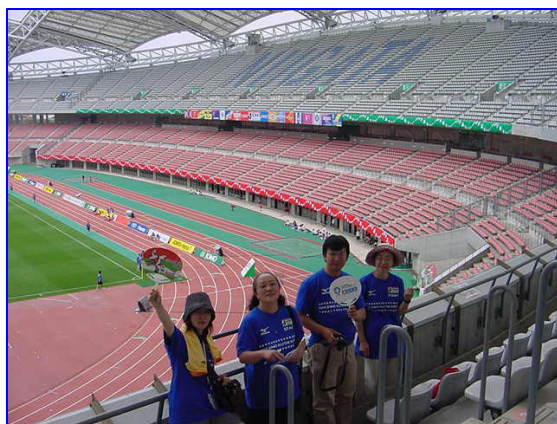
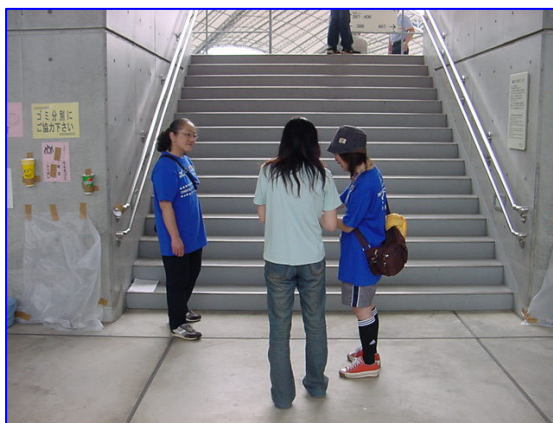
「選手がオールスターならボランティアもオールスターで運営できないか」、そのアイデアを新潟のボランティアが提案、それに応える形で初の企画としては予想を越える15クラブ102名のボランティアが、それぞれの手段で新潟に集結しました。実現してしまえば既成事実として当たり前と思われるところですが、Jリーグ、各ボランティアとの調整、配置から時間のスケジュールまで、おそらくは胃の痛くなるような準備があったと思います。けれど、私たちは記念すべきこの企画に参加できたことを心から感謝しています。表舞台のオールスターはJ-EASTもJ-WESTも互いに譲らず3-3で引き分け(オールスターでは初めて)、得点の多さで観客を楽しませてくれましたが、ボランティアのオールスターも、目立ちはしなくても、快い疲れと今後につながるという期待感を残してくれました、その意味では、イベントとしては終わったけれど、そこで培われた人のつながりは確実に続いていくのです。

仙台からは6名が自主的にこの企画に参加しました。ほぼ快晴の仙台出発は朝7時半、高速からみえる山々は緑が濃く、高く真っ青な空に映えています。風が乾いているので暑さは感じません。会津を抜け新潟への数多いトンネルを抜けるとやや雲は多くなりましたが、順調に11時半には指定された「ホンマ健康ランド」に到着、ここで山形・甲府の懐かしいメンバーと再会し、オールスター用のスタッフTシャツを受け取ります。カラーは青、背中と前にSTAFFの文字とオールスターのロゴ、ADカードの代わりともなるシャツを着ると、気持ちがひきまります。12時半、ランドのマイクロバスでビックスワンに向かいました。



【 オールスターボランティア 】

スタジアムでは専用のゲートからボランティアの控え室に誘導されました、既に控え室やピッチの周辺には同じTシャツを着た仲間がたくさん待っています。あちこちで昨年まで5回続いているJリーグホームタウンサミットで知り合ったボランティア同士のあいさつする姿がありました。スタジアムの中は赤い横断幕、看板、各J1チームのフラッグが祭りムードを醸し出していて、ピッチ上ではセレモニーやアナウンスの入念なテストが繰り返されています。まずは新潟のボランティアも含めて150名ほどでの「記念写真」撮影(この写真は当日夜の親睦会にプリントされて各個人に配布され一番うれしい記念品になりました)を行い、その後、あらかじめ決められた配置に基づいて各スタンドに移動しました。



荷物確認の1次ゲート、チケットもぎりの2次ゲートに対し、スタンドの入り口の3次ゲートでは券種の確認と、案内誘導、そしてゲート入り口のごみ袋の状況を確認しながら、できる限り分別することが主な業務になります。事前に配布されたマニュアルに基づき新潟のボランティアスタッフより説明をうけ、その後、ポジションの周辺を実際に歩いて、何がどこにあるのかの位置確認をしました。ことに売店は地域性があるもので、新潟ではアルビレックス牛乳、笹だんご、勝ちの種という米菓、オールスターのグッズやパンフレットもあります。開門は15時、キックオフの3時間前です。私たちの配置されたのは南スタンドの2層目、眼下に入場を待つたくさんの人と、それでもまだスペースの目立つ広大な駐車場が見渡せます。

開門と同時にまず私たちのいる自由席に、いい席を確保したい観客が早足で駆けてきます。ころばないように注意しながら券種を確認しはじめると、ゲート2名では予定していた休憩をとることは無理でした。新潟の観客が多い

とはいえ、普段とは席種が変わっている事もあり質問は指定席に関するものと、トイレの場所に関するものが大半でした。やがてセレモニーがはじまり人の姿が少なくなったタイミングをみて、ボランティア控え室に行ってみました。メインスタンドの真下にある控え室は、テレビ放送の関係もあり、灯りを消しているため暗く休むのはブルーシートの上です。そのせいか、明るいピッチで行われているセレモニーを立ってみている人が多かったようです。



その後、キックオフからゲーム終了までは予想以上に早いものでした。途中ゲーム中に改めてボランティア控え室でお弁当をいただきました。容器・箸などが分別されていてうれしく思いました。ボランティアの業務では、せっかくのお楽しみ抽選券にナンバリングがないものがあつた程度で、トラブルが無かつたのは幸いです。得点が入るたびに気になりましたがじつと我慢、ただ、ゲームあとのカクテル光線でのイベントだけは、ちらっと見ましたがピッチ上に星などが動く様子はきれいでした。にしても一度消した灯りがすぐに再点灯するのはいい設備です。以前、ペンライトの企画を仙台スタジアムで企画した際に、ライトを一度消灯すると、再点灯するまでに時間がかかりすぎるということで断念したことを思い出します。

ゲーム後は分別を呼びかけながら、ごみの清掃作業を行いました。分別は紙コップを重ねる他に、ペットボトル・燃えるごみ・プラスチック、紙コップをつぶして投げ入れる観客が多く、もっと重ねることへの理解を呼びかけたいものです。おどろいたのはセレモニーの終了後15分程度で当日の4万を越える観客の大半がスタンドから出たことでした、最低でも30分以上は観客が残っている仙台とは構造はもちろん、サポーターの気質の違いもありそうです。ごみの清掃ではJリーグのスタッフの方や、今回はクラブのフロントの方も2人ほど一般ボランティアと同じ体験をしてくれました。こうしたことも貴重な体験になるし何より連帯感を作ります。

21時近く、新潟のボランティアさんを残し私たちは一足早く、健康ランドに戻り、親睦会のスタートまでの時間、お風呂に入らせていただきました。

【 ボランティア親睦会 】

ほぼ定刻(22時)に健康ランドの広間で、100名を越える人数での親睦会がスタートしました。アルビレックスのフロントスタッフからのあいさつ、乾杯、そして一気にあちこちで名刺交換・親睦がスタートします。考えてみれば全国各地から集まったボランティア、この交流も大きな目的だったのでしょう。私たちもSV2004という組織の説明ペーパーを配布し、交流に積極的に参加しました。昨年のサミットの参加がなく、交流のなかつた東京V・G 大阪・市原・大宮といったチームの人々とは特に意識してJリーグボランティアMLなどの現状について話し、既に参加しているチームのボランティアにも、登録メンバーの拡大について呼びかけました。この結果、新たに大宮のボランティ

アの参加が決まったほか、横浜国際・川崎などのMLへの参加者が拡大することになりました。



飲みかつ話すと2時間はあっという間でした。いつしかユニフォームはあちこちで入り混じり、肩を組み歌う者もできます。賢いものは残ったつまみや飲み物を二次会用に確保しています。

スタートそのものが22時ということだったん終了したのは24時過ぎでした。交流はそこからが本番、座敷にざこ寝ということもあって、あちこちに集まり親睦会の続きが始まります。風呂でのぼせるまで1時間以上話すもの、酔いつぶれてタオルケットをかぶって寝入るもの、ロビーに集まり結局朝まで話し明かしたもの、話したいこと、聞きたいことは尽きません。そして私が話した全ての人に共通していたのは、「明るく前向き」であったことです。体力的にさすがに徹夜はできませんでしたが、時間がたつのが勿体ないと感じたのは私だけだったでしょうか。

< オールスターボランティア参加ボランティア >

仙 台	FC 東京	横 国	C 大 阪
山 形	東 京 V	横 浜 FC	G 大 阪
市 原	川 崎	甲 府	新 潟
柏	大 宮	磐 田	

新潟は昨年Jリーグ記録となる60万人以上の観客を動員し、その勢いでJ1に昇格、今最もサッカーに燃えているところですが、そこでオールスターが開催されるということは新潟にとってもリーグ全体にとっても、最も幸せなことだったと思います。新潟のサポーターはその「幸せ」に対する答えをJ-EASTの監督としてアルビの反町監督を、そして選手としてキャプテンの山口をはじめ3名を送り込むことで示しました。そして、新潟のボランティアは、ここまでこつこつと作ってきたネットワークを活用し、全国のJリーグのボランティアを集めることでそのパワーを全国に発信したのです、クラブ・サポーター・ボランティアのそれぞれの「夢」の実現と、いい関係を見せてくれた二日間でした。